

誓いの言葉

ふるさと氷川町を胸に、
力強く歩んでいきます。

実行委員 松田 光流 ひかる



令和5年 はたち 氷川町二十歳の集い

対象者 平成14年4月2日～15年4月1日生まれ
該当者 120人
出席者 94人(電北地区56人、宮原地区38人)

1 月3日、電北体育センターにおいて「令和5年氷川町二十歳の集い」が開催され、94人の新成人が出席しました。民法改正により成人年齢が18歳に引き下げられたことから、これまでの「成人式」から「二十歳の集い」へ名称を改め、初めての開催となりました。

華やかな振袖や真新しいスーツに身を包んで会場に訪れた新成人

私たちはこの20年の月日で、多くの事を経験・体験してきました。特にこのコロナ禍や熊本地震などの非日常から学ぶことは、とても多かったように思います。

さて、私たち120名は、すでに働いている人や学業に励む人など、立場は様々ですが、いずれ全員が社会に飛び立っていくことになります。

これからの社会は、これまで以上に先の見えない厳しいものになるでしょう。今でさえ人と人のつながりをやむなく分断しなければならぬ世の中です。さらに、地球温暖化や格差、飢餓の問題などを受け、持続可能な社会やSDGsの機運が高まっています。そのような社会の中で、私たちは社会の一員として、そして一人の大人として物事を考え、それぞれの目標や夢を実現させ、社会を支えることが求められているのです。

これからは予測できないような事が数多く待ち受けています。これまで以上に大きな壁が立ち塞がり、一人悩み苦しんだり、逃げ出してしまう事があるでしょう。

しかし、私たちに与えられたたった一度だけの人生を、自分自

たちは、式典の前から久しぶりの再開を喜び、お互いの近況を話す姿が各所で見られました。

式典の始まりを告げる記念ムービーでは、中学校時代の懐かしい写真の数々が映し出され、温かな雰囲気になりました。

式辞では藤本町長から「今日家に帰ったら、これまで愛情を持って育ててくれた家族に対する感謝の気持ちをぜひ言葉にして伝えてください。そして、発想・行動力・情熱を持ち、若いエネルギーで新しい時代を切り拓く挑戦をしてください」とエールが送られました。

また、恩師スピーチでは、中学校時代の3人の恩師から熱いメッセージが送られ、新成人たちは真つすぐな眼差しで耳を傾けていました。

20歳という人生の節目に立った新成人の皆さんは、今までお世話になった人たちへの感謝と、未来への希望を胸に、これから始まる新しい道に向かって力強く歩み始めました。

身に負けず、全力で駆け抜けていけば未来は開かれることを私たちは学んできました。また、逃げたとしてもそこで諦めず、学舎で友と共に学んだことや成し遂げたことを思い返したり、自身の得意分野を活かせば、どんな壁でも無理なく乗り越えたり、回り道をしたり、あるいは壊すことすらできることを私たちは知っています。

私たちは社会の一員として、困難を乗り越える力を無理なく発揮し、それぞれの目標や夢に向かっていくことを誓います。また、いつも私たちを応援し、支えてくれる人たちがいるこのふるさと氷川町を胸に、力強く歩んでいきます。

私たちがこうして集い、同じ時間を過ごせるのは、これまで私たちを大切に育ててくれた家族や地域の方々、導いて下さった先生方のおかげです。本当にありがとうございます。この気持ちは、次世代への恩送りやこれからの社会貢献という形で返していきます。

健康を第一に無理をせず、何事にも根気よく考え、常に信義を持って物事に当たれる成人となることをここに誓います。